

# 京都府立医科大学 リハビリテーション医学教室開設

## ～京都リハビリテーション医学研究会第1回学術集会開催案内～

### 京都府立医科大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学 責任教授 久保俊一 / 病院教授 三上靖夫

超高齢社会を迎え、健康寿命の延伸のためにリハビリテーションの必要性が認識されつつあります。このような社会情勢のなか、平成26年10月1日付けで、京都府立医科大学にリハビリテーション医学教室が開設されました。大学院名称がリハビリテーション医学、学部名称がリハビリテーション医学教室です。

京都府が高齢化に対する京都式地域包括ケアの3大プロジェクトとして、「認知症」「看取り」とともに「リハビリテーション」を据え、リハビリプロジェクトの一つとして教室の開設を決定したのが平成26年6月でした。その4カ月後に教室が開講し、整備を急ピッチに進めてきました。開設からまだわずかな時間しか経っていませんが、平成27年1月から実働を開始しております。

専任教員は、病院教授1名、講師2名の合計3名で、全員が日本リハビリテーション医学会専門医・指導医です。以前から附属病院でリハビリテーション医療を担ってきたリハビリテーション部、整形外科をはじめとする学内のリハビリテーションに関係の深い診療科、関係大学や関連病院の応援を得て教室を運営しております。

臨床系大学講座には、教育、研究、臨床の3つの使命があります。教育は人材育成であり、本教室の責務です。医学部生に対しては、平成27年4月から4回生に対する講義と、5・6回生の臨床実習を担当します。講義は客員講師の先生方にもお願いしてリハビリテーションの各領域をカバーしていく予定です。急性期リハビリテーションの臨床実習は附属病院で、回復期・生活期のリハビリテーションについては関連病院で行います。大学院生の指導は、後述する研究テーマに基づいて行っていきます。リハビリテーション専門医を養成するプログラムは専門医機構の指針に準拠しますが、独自に総合医療・医学教育学教室との統合プログラムを策定しました。さらに、リハビリテーションのメディカルスタッフを含め

たチーム医療の教育や、一般市民に対するリハビリテーション医療の理解を深める啓発活動などを行っていく予定です。

次に研究ですが、ロボットリハビリテーションの開発推進をテーマとします。新たにロボットリハビリテーションセンターを立ち上げて、各種ロボットを導入する予定です。その他、生体物理刺激を応用したリハビリテーションの開発、薬物療法を組み合わせたリハビリテーションの開発、義肢・装具の開発などを研究テーマとしていきます。これらの研究の推進を目的とする共同研究講座(仮称 リハビリテーション先端医療開発講座)が、平成27年4月に設立される予定です。

大学附属病院における実際の臨床については、専用病床が5床あります。また、従来から活動しているリハビリテーション部と連携しながら、各診療科の患者さんのリハビリテーションを行っています。

平成27年2月7日～8日に、教室が事務局を担当している京都リハビリテーション医学研究会の第1回学術集会をウェスティン都ホテル京都で行います。日本のリハビリテーション医学を代表する先生方をお招きして御講演いただきます。一人でも多くの先生方にお出でいただきたく、準備を進めております。学術集会の詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

(<http://www.kyoto-rehabili.jp/convention/rehabilitation01.html>)

立ち上がったばかりですが、各方面の御支援をいただきながら、リハビリテーション医学・医療に貢献していくことができる教室にしたいと考えております。会員のみならず、どうかよろしく願います。

教室ホームページ(<http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/reha/>)



教室開設式:平成26年10月2日  
リハビリテーション医学教室開設式にて



メンバー:前列左から 久保責任教授、三上病院教授  
後列左から 沢田講師(京都府リハビリテーション教育センター)、  
野村講師、池田講師